

培った経験に「新たな意味」を与えて『経験値』に変換する。そして、これらの『経験値』を編集して未知の仕事で使えるようにする～（その1）

「人事部」であれば

- 業務内容は「部門構成と人材配置」／「採用計画、採用面接」／「評価と報酬の制度設計」／「労務・福利厚生・メンタルヘルス対策」／「研修の立案とコーディネート」などだが、**人事部の役割は一言で言うと「人材によって組織を発展させる」**ことである

- こういう仕事から得た経験を「相手のニーズを見極め、対話や折衝を重ねながら合意形成や動機付けをしていく経験を積んできた」と解釈し直してみる。——このように、「**新たな意味**」を与えてみると『経験値』という無形資産に変換することができる

BST
コメント

このように解釈をし直して「意味付け」を行っていくと、例えば「講師になって人材研修を行う」／「営業になって取引先との合意形成に向けて交渉する」／「コンサルタントになって顧客の悩みを聞いて解決に導く」・・・というように、さまざまなスキルに「応用転換」することができます

「自分がやってきた仕事の本質的な価値は何だったのだろうか？」
という視点で解釈をし直し、
それを言語化すると、
これまで培った経験が意味付けられて『経験値』（＝知恵や応用の利くスキル）に変換することができる

これらの『経験値』を異なる文脈や／違った分野で活用できないものかと考えて、組み合わせたり編集をしていくと、
この『自分ならではの経験値』の「応用範囲」はどんどん広がっていく

例えば人事部の場合では、
人事という“自己限定”（＝思い込み）や「文脈」（＝背景や前後関係）から離れて、人事の仕事の本質をあぶり出していけば、他の仕事で活用できる資質やスキルが幾つも見えてくる